

平成30年度第1回逗子市立図書館協議会会議録

日 時 平成30年7月9日（月）

14：00～16：15

場 所 市庁舎5階 第1会議室

1. 開会

2. 会長互選

3. 議事

(1) 平成30年度図書館の体制について（報告）

(2) 平成30年度図書館事業について（報告）

(3) 平成29年度図書館事業について（報告）

(4) 子どもの読書活動推進計画の平成29年度進捗状況について（報告）

(5) 逗子市立図書館のサービス目標2018について（報告）

(6) 平成30年度(平成29年度対象)教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検
及び評価について

(7) その他

4. 閉会

出席委員

汐崎順子会長 石井敬士委員 辻伸枝委員 松島綾香委員 吉川裕美委員

事務局

安田図書館長 鈴木担当課長 利根川専任主査 鳥越主事

傍聴 2名

【鈴木担当課長】 それでは、委員の皆さん全員お集まりいただきましたので、これから平成30年度第1回図書館協議会を始めさせていただきます。

まず、会議に先立ちまして、傍聴の方をお願いいたします。配付の注意事項をお守りいただきまして、秘密会の開催の際には退席いただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

本日は平成30年度第1回図書館協議会となりますので、改めて委員の皆さんをご紹介しますいただきます。それでは、向かって左手側から、汐崎順子さんです。

【汐崎委員】 汐崎です。よろしくお願いいたします。

【鈴木担当課長】 次に、石井敬士さんです。

【石井委員】 石井です。よろしくお願いいたします。

【鈴木担当課長】 次に、辻伸枝さんです。

【辻委員】 辻です。よろしくお願いいたします。

【鈴木担当課長】 次に、吉川裕美さんです。

【吉川委員】 吉川です。よろしくお願いいたします。

【鈴木担当課長】 松島綾香さんです。

【松島委員】 松島です。よろしくお願いいたします。

【鈴木担当課長】 本日は図書館協議会委員全員出席ということで、図書館協議会運営規則第3条第2項の規定に基づきまして、会議は成立しております。

議事に入る前に、図書館協議会運営規則第2条の規定で、会長の任期は1年とする。ただし、再任を妨げないと規定されていて、会長は委員の互選によりこれを定めることになっておりますので、委員の皆さんの互選で会長の選出をお願いしたいと思います。どなたか立候補していただける方、またはご推薦される方がいらっしゃいませんか。

(「汐崎委員」の声あり)

汐崎委員を平成30年度の会長にという推薦がありました。みなさんよろしいでしょうか。それでは汐崎委員よろしくお願いいたします。では、会長席へお移りください。

【汐崎会長】 このたび会長になりました汐崎です。昨年度に引き続きどうぞよろしくお願いいたします。さて、当協議会の会長職務代理者ですが、図書館協議会運営規則第2条第4項の規定に基づきまして、辻委員を指名したいと思います。よろしくお願いいたします。

【辻委員】 よろしくお願いいたします。

【汐崎会長】 会議に入る前にお願いがあります。今年度の会議録作成は、委託ではなく自前に

よる作成となります。また、私も含め、委員の皆さんには傍聴者にもよく聞き取れるように声の大きさと速度の調整を願います。また、会議録作成に際し発言者を明確にするために、発言の際には挙手をいただき、議長からの指名の後に発言をいただくようにご協力をお願いいたします。

それでは議事に入ります。議事1として、事務局から平成30年度図書館の体制について、報告をお願いいたします。

【鈴木担当課長】 それでは平成30年度図書館の体制について報告させていただきます。図書館は、合計49名で図書館の運営を行います。内訳としましては、安田館長を筆頭に、常勤職員が担当課長1名、専任主査1名、任期付短時間勤務職員が4名、再任用職員2名、非常勤事務嘱託員が40名です。なお、非常勤事務嘱託員40名の内、分室職員は6名で2分室を運営いたします。

また、今年度から財政対策プログラムに基づいて、休館日並びに開館時間の見直しを行い、開館時間数が短縮されたことから、非常勤事務嘱託員を5名削減し、運営することといたしました。

簡単ですが、以上で図書館の体制について報告させていただきました。

【汐崎会長】 図書館の体制について、報告いただきましたが、何か質問はありませんか。今年度からの開館時間の短縮に伴い、職員数が削減されたことで、カウンターのローテーションや業務の形態も変わり、職員の負担などはいかがでしょうか。

【鈴木担当課長】 大きな変更点は、平日の閉館時刻が午後8時から午後6時に変更となった点ですが、カウンター職員のローテーションは、1日3交代で従来と変わることなく運営しています。すでに3か月が経過しましたが、今のところカウンターでの懸案事項や利用者へのサービス低下の影響はございません。また、企画や事業実施については、非常勤事務嘱託員のうち、週4日、週28時間勤務の職員20名が中心に行っており、今年度の事業については、滞りなく進んでいます。

【汐崎会長】 はい、ありがとうございます。体制は、少し変わりましたが、滞りなく運営されているということで、また、今のところ大きなトラブルはないと理解しました。

【辻委員】 分室の運営は、6名の非常勤職員が運営しているということで、小坪、沼間分室、各3名ずつで運営しているということでしょうか。

【鈴木担当課長】 はい、そのとおりです。

【辻委員】 各分室、常時2名での運営となりますか。

【鈴木担当課長】 1日当たり1.5人体制となります。1日のうち、午前中が、ブックポストの資料の返却、予約本の確保、資料搬送の搬出及び受取り、書架整頓と比較的忙しい時間帯となるこ

とから、2名体制で運営をしています。午後は、貸出、返却作業がカウンター業務の中心となることから、1名体制となります。職員が休暇などで欠員が生じる場合は、図書館本館から応援体制に入ることからカウンター職員が欠けることはなく、業務に支障が出ることはありません。

【汐崎会長】 分室運営については、図書館のサテライトということですね。他にご意見はありませんか。

【石井委員】 今年度の職員体制は、うまくいっているということですね。ただ、1年間は経過を見てみないといけない。今後、問題が起こることもあるから。現在のところは、良いけれども1年間の様子を見て判断していくことがよろしいと思います。

【汐崎会長】 ほかにご意見ありませんか。

【辻委員】 今年度は、5名の非常勤職員が削減され補充をしないでこの体制で行くと思いますが、開館時間が短くなり、シフトの組み方を変えて、削減はされたが何とかやり繰りしていることから、今のところ体制は整っているということですね。

【鈴木担当課長】 平成30年度の職員体制を考えるに当たり、年間開館時間数、職員の総勤務時間数、またカウンターに常時職員3名体制が取れるか、業務に係る時間数、これらを全て勘案した結果、何とかこの職員数で運営が可能であると判断しました。

【汐崎会長】 石井委員からの発言もありましたが、年間通してみないといろいろと見えてこないこともあります。これから夏休みを迎え、多くの子どもたちが来たりとすべてが問題なく運営できるかどうかはわかりませんので、その動向については、1年経った時にまた検証していきたいと思います。

続きまして、議事2の平成30年度の図書館事業について、事務局から報告をお願いします。

【利根川専任主査】 それでは、平成30年度の図書館事業について説明いたします。まず、資料1「平成30年度図書館予算説明書」をご覧ください。平成30年度の予算編成につきましては、将来に向けより安定した財政運営を確保するために、財政対策プログラムを踏まえてのものとなり、全庁的な事業の見直しを行いました。図書館の予算につきましても、平成29年度と比較し、人件費を除いた予算額は約630万円の削減となりました。

主なものを説明いたします。まず、蔵書整備事業ですが、昨年度と同額の2001万5千円を確保いたしました。次に図書館活動事業ですが、駅ブックポストの廃止に伴う資料搬送業務の縮小、ブックスタート事業の廃止、映画会開催回数の削減等により、約150万円の削減となりました。次の図書館維持管理事業ですが、昨年度中に図書館2階の書架照明のLED切替工事が終了した

ため、約450万円の削減となりました。次に、図書館情報システム管理事業ですが、利用者用レシート用紙等の削減により、金額としては約10万円の削減となりました。最後に、図書館事務費につきましては、今年度は昨年度実績による予算配分となったため、約8万円の削減となりました。なお、資料2-1から2-3ですが、図書館並びに分室の平成30年4月から6月の利用統計になります。議事7のその他案件の中で参考資料としてご覧いただきますので、この場での説明は省略させていただきます。

また、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスをこの7月1日より開始いたしました。一週間が経過しましたが、これまでの利用実績はありません。

簡単ですが、平成30年度の図書館事業についての報告は以上です。

【汐崎会長】 ありがとうございます。議題2について、何かご質問はございますでしょうか。

【石井委員】 今の説明の中で、ブックスタート事業を廃止したとのことですが、これは図書館活動事業に組み入れられていますが、資料の購入予算からの支出ではないのですか。

【利根川専任主査】 ブックスタート事業に関しては、図書館活動事業予算の中から、これまでブックスタート用の図書や袋をパックとして一括で購入していました。しかし、今年度の緊急財政対策により、このブックスタート事業も廃止の対象となり、同等のサービスを維持するため、それに代わるファーストブック事業を新たに展開し始めたところ です。

【石井委員】 従来から、図書館活動事業予算の中から支出していたのですね。

【鈴木担当課長】 ブックスタート事業は、昨年度までブックスタート用の本、袋、説明書などを一つのパックとして、図書館活動事業の予算から支出していました。

【汐崎会長】 事務局からの説明の中で、蔵書整備事業について、資料の記載されている中身と違う説明があったことは注意していただきたいです。資料に忠実に説明していただきたいです。

【利根川専任主査】 この蔵書整備事業予算は、資料の購入予算が2001万5千円で、それに蔵書の選定に関してのブックフェアなどへの出張旅費として3千円が加わり、この事業の予算総額は2001万8千円となるということになります。

【汐崎会長】 本の購入予算が2001万5千円で、それに出張費3千円が加わり、合計で2001万8千円となるということですのでよろしいですね。

【鈴木担当課長】 一つの事業の予算の中に、本の選定に係る出張旅費として3千円、本を購入するための消耗品費として2001万5千円と、合わせてこの事業の総額が2001万8千円になるということでございます。

【汐崎会長】 図書、逐次刊行物、視聴覚資料等の内訳は、従来とほぼ変わりはないのですね。

【利根川専任主査】 ほぼ従来通りの内訳となっています。

【汐崎会長】 細かいことですが、気になりましたので、確かめさせていただきました。他にございませんでしょうか。

【辻委員】 先ほどの説明で、630万円の削減とのことでしたが、前回の図書館協議会においては、580万円をクリアすればいいとのことでしたが、さらなる削減額の増額があったということでしょうか。

【鈴木担当課長】 大きな削減の要因は、LED照明の工事の際、入札により工事費にかなりの削減効果がありました。結果として前年度比630万円の削減となったものです。

【辻委員】 素人の考えですが、630万円と580万円との差額50万円でブックスタート事業予算の35万円に繋がらなかったものでしょうか。

【汐崎委員】 その件については、役所の機能としては前年度の予算化という前提があるので、前年度に費目を立てていないと予算化は難しいのかなと思います。そういった柔軟性があるといいのですがね。ただ、辻委員がおっしゃったように柔軟な予算の使い方が欲しいケースではありますね。

【鈴木担当課長】 ただ今、会長の発言にありましたように、結果としては630万円の削減となったわけで、予算要求の段階ではその結果はまだ見えていない状況でした。今回は財政対策プログラムの中での予算編成となりましたので、断腸の思いでしたが、4か月健診時に実施してきたブックスタート事業を廃止し、予算をかけない形での読書推進のための事業展開を模索したものです。

【辻委員】 わかりました。

【汐崎委員】 辻委員がおっしゃいましたように、580万円でクリアできるものを、結果として630万円の削減となったわけですが、予備費のような予算を設けて、そこから支出するような仕組みにはできないものでしょうか。

【鈴木担当課長】 予算を計上する際は、それぞれの事業に対す予算付けとなるため、当初から予備費という枠組みは想定しておりません。現場といたしましては、自由裁量という枠組みがあればよいのですが、役所の予算編成においては、そうした組立とはなっていないために、現場の思い通りにはいかないのが現状です。

【汐崎会長】 もともと事業立てをしていないと、余剰が出ても配分するのは難しいということ

ですね。

【鈴木担当課長】 そのとおりです。

【汐崎会長】 他にご質問はございませんか。次に議事3の平成29年度図書館事業について、事務局から報告をお願いします。

【利根川専任主査】 それでは、平成29年度の図書館事業について報告いたします。

まず、資料3-1「平成29年度逗子市立図書館統計」をご覧ください。昨年度1年間の開館日数、来館者数、貸出者数、貸出冊数等を掲載していますが、1年間の開館日数は316日でした。一日当たりの来館者数の平均は1679人で、減少の傾向にあります。分室を含めた貸出点数は、平成20年度に記録した61万6千点から毎年減少の道を辿り、昨年度は50万3千点と、ピーク時の81%まで減少いたしました。分室を含めた予約の件数に関しましても、平成22年度に記録した9万2千件から減少の傾向を辿り、昨年度は7万8千件とピーク時の85%まで減少しました。次に、コピーサービスに関しては、ほぼ前年度と同様の数値となりました。

次に、資料3-2「逗子市立図書館児童書利用統計」をご覧ください。8月の「図書館探検クイズ」等で活発な時期はありましたが、全体としては、貸出冊数の減少傾向が見て取れます。その中でも、対前年比で増加している、総記・自然科学・産業の部門については、小学校での学習利用のために団体貸出があったことが要因として考えられます。

次に、資料3-3、3-4をご覧ください。小坪分室につきましては、貸出冊数はほぼ前年度並みとなりましたが、予約の件数は、前年度比6%の減少となりました。また、沼間分室につきましては、前年度比で貸出冊数は6%、予約件数は11%の減少となりました。資料5-3、5-4でお示した分室での展示やおはなし会の実施等、分室の利用促進に努めてはいますが、結果として数字には反映されていません。

次に、資料4「映画会実施状況」をご覧ください。名画座映画会につきましては、これまでと同様に、多くの入場者がある状況が継続しています。1年間9回の映画会の実施で、869名の入場者がありました。また、11月にはバリアフリー映画会を実施しました。

次は展示の報告です。資料5-1、5-2をご覧ください。平成29年度の利用の多かった展示をお伝えします。9月に実施した「ゆるっと・ふわっと・のんびりと」、1月に実施した「心と身体のほっこり養生法」、6月に実施した「逗子の昔話」、また、児童の展示で5月に実施した「わらべうた・ことばあそび」、7月に実施した「夏休みだからこそ読んでみよう」、1月に実施した「犬も歩けばお正月」の展示の際の貸出が多かったものです。分室においても、分室の職

員が自ら企画し展示を実施しています。

平成29年度の報告としては最後になりますが、資料6「事務事業の実施状況調」をご覧ください。その概要は、蔵書整備事業に関しては、約2000万円の資料費を100%執行いたしました。

次に、図書館活動事業は、ほぼ予定通りの執行となりました。次に、図書館維持管理事業に関しては、10月の特別整理期間中に、2階の書架照明のLED化のための工事を実施し、以前よりかなり明るくなりました。次の、図書館情報システム管理事業並びに図書館事務費に関しましては予定通りの予算を執行いたしました。以上、簡単ですが平成29年度の事業概要の報告を終わります。

【汐崎会長】 確認したいのですが、資料3-1で貸出冊数が減っているとの報告でしたが、事務局からの報告と資料に掲載されている数値が合致しないのですが。

【利根川専任主査】 資料3-1は市立図書館のみの数値で、口頭で報告したのは、分室を含めた全体の数値です。

【汐崎会長】 私たち委員は、資料の数値をそのまま追いかけますので、資料に載っていない数値を言われても困ります。傍聴の方もいらっしゃるので、この点は事務局にはご注意いただきたいです。そうすると、先ほどの口頭での報告については、分室を含めた全体の数値と把握してよろしいですね。委員の皆さんご質問等ありましたらお願いいたします。

【辻委員】 この統計ではこの3年間の数値を示されていますが、全体としては、平成20年度をピークに徐々に減少してきているとのことですが、それは仕方ないとして、展示を活発に行うなどして、貸出冊数に結びついていると評価できますが、映画会は9回実施し、11月にはバリアフリー映画を実施したとのことですが、通常映画会開催よりも費用がかさむのではないかとということ、実際障がいのある方の参加はどれほどでしたでしょうか。

【鈴木担当課長】 バリアフリー映画は、平成28年度より実施し、昨年度は2回目となりました。障がいのある方の外出の機会を設けたいということから行った企画で、図書館内でのPRだけではあまり広報が行き届かないことから、市の障がい福祉課と連携を取りながら、障がいのある方に声掛けをさせていただいて、実施に至ったものです。平成29年度実施した際の聴覚に障がいのある方の参加は、およそ10人程度でした。もっと多くの障がいのある方の参加をめざし、平成30年度も実施すべく準備していこうと考えております。また、民間企業でこれらのDVDを無料提供いただいで実施しており、費用はゼロで対応しています。

【汐崎会長】 私は、日常展示の現場を見る機会はほとんどないのですが、松島委員はご覧にな

る機会がありますか。

【松島委員】 私は、この春から市内に自分の店をもちまして、本の展示を行っていて、図書館と連携できればと考えているところです。

【汐崎会長】 さまざまな可能性を探っていくことが大切かと思いますが、他に何かご意見はございますか。

【石井委員】 来館者と貸出者数ですが、少しずつ減ってきているのですが、来館者の減少と貸出者数の減少とに、何か相関関係があるのでしょうか。この平成29年度の統計では、来館者が53万人、貸出者数が20万人となると、相当数滞在型の利用者がいらっしゃるということですね。展示を活発にするなど、来館者数は減っても、貸出者数を伸ばす手立てはあると思うのですが。逗子は利用率が非常に高いのだが、減ってしまった貸出者数や貸出冊数を伸ばす工夫を考える必要が出てきたなと思います。平均的に数値が落ちてきているところが気になりますが。

【安田館長】 平成20年度貸出冊数のピークであったことは、統計の数値から明らかとなっているところですが、当時の資料の提供は、リクエストを積極的に受け、複本も多く購入して対応してきたわけで、結果貸出冊数が旧図書館の時代と比較し飛躍的に伸びてきたものと思います。一方で多様な資料を揃える方向性を見出していきたいと思います。

【石井委員】 予約の件数も減ってきてはいるようですが、逗子は貸出冊数における予約による貸出の率が非常に高いのですが、予約に係る業務も相当なものなので、予約の取り扱いについても考えなおさなければいけない時期に差し掛かっているのでしょうか。

【汐崎会長】 私は、石井委員とは少し意見が異なりまして、現代の図書館は利用が多様化してきていると思います。もちろん、貸出冊数も図書館利用のスケールを図るものではありませんが、館外貸出をせずに、館内でご覧になるだけの方も増えてきています。たくさん借りていただきたいということでしょうけれども、この統計を見ても、貸出冊数が減ったからと言って、図書館活動が活発でなくなったとは私は思いませんし、貸出冊数だけではなく、滞在時間等の長さなど、平成29年度と平成30年度とでは、開館時間も大幅に変わってきますし、来年度の評価の際に、新たな評価の基準を設けなければならないということが、私たち図書館協議会委員に与えられた課題ではないでしょうか。

【石井委員】 私が申し上げたのは、統計の取り方を言っているのではなく、貸出者数、貸出冊数等従来図書館の評価をしてきた物差しを、滞在時間等を加えるなど、新たな対応を求められるのではないかとということです。座席数には限界があるから、これ以上は来館者数が増えることは

ないでしょうから、その滞存者数の評価の基準も考えねばなりません。大和市の来館者数300万人と逗子市と同じレベルで比較はできないでしょうが、逗子市の場合、それほど利用が伸びる要素はないと思われます。

【辻委員】 予約の件ですが、今年度は職員数も削減され、予約に係る業務も大きいものですが、逗子市民と他市の住民との予約件数の差はあるのでしょうか。他市の利用者は予約そのものがないケースがあると聞きますが。

【利根川専任主査】 逗子市内に在住の方は、その時点で最高12点まで予約が可能で、数年前より、逗子市外に在住の方は、その半分の6点までといたしました。特に葉山町の方の利用が多いので、逗子市民を優先すべきとの考えから、見直しを行い、市外の方の予約の受付件数を変更いたしました。

【汐崎会長】 映画会も市民優先にしたのですよね。

【鈴木担当課長】 できるだけ逗子市民の方を優先したいとの考えから、現在は市外には、映画会実施の告知は行っておりません。ただ、館内の掲示を見て、横浜市民が映画会のために来館されることはあります。

【汐崎会長】 映画会の開催に関しては、大々的に開催をPRするのではなく、逗子市内でのPRにとどめているということですね。

次に議事4の子どもの読書活動推進計画の平成29年度進捗状況について事務局より報告をお願いします。

【利根川専任主査】 平成29年度の子どもの読書活動推進計画の進捗状況につきまして、資料7-1のとおりです。

大変申し訳ございませんが、この資料7-1の2ページ目に誤りがありました。16行目の「平成28年（2016年）」と表示していますが、「平成29年（2017年）」と訂正いただけますでしょうか。

平成29年度は、平成25年度からスタートした「第一次逗子市子どもの読書活動推進計画」の最終年度となりました。

資料7-2の児童サービスについて報告いたします。

まず、定例のおはなし会につきまして、特におひぎにだっこのおはなし会が、前年度比約60%で、参加者の減少傾向が見られました。これは、報告1ページの一番下の段の注意書きにもあるように、0～1歳児対象の「わらべうた」のおはなし会を開催したことで、参加者が分散したこ

とによるものです。また、平成29年度が最終年となってしまいましたが、ブックスタート事業については、6 Pにあるように参加率が98.6%となり、かなり参加率が高かったことが見て取れます。

この第一次計画の5年間の成果としましては、「わらべうた」のおはなし会や夏休み期間中のクイズラリー等図書館における新たな事業の企画実施や、ヤングアダルトコーナーの設置など、この世代への取り組みにおいて進展が見られました。また、図書館と市内の公立小学校・中学校とは、図書館司書と学校図書館指導員との人的交流を始め、本の貸借などの物流も開始し、連携が深まっています。地域では、自治会館でのリサイクル本による子どもの本の提供なども始まりました。その一方で、家庭への啓発活動や、障がいのある子どもへの働きかけ、地域・関連機関との連携等は、まだまだ希薄な状態ですので、今後さらなる取り組みが課題として残りました。

この第一次計画は、平成29年度をもって終了し、平成28年度から足掛け2年をかけ、第二次計画策定に向け準備を行い、本年3月に計画案が教育委員会定例会にて了承をいただきましたので、この4月より向こう5年間を計画期間とする第二次計画がスタートしました。

【汐崎会長】 はい、ありがとうございました。平成29年度をもって第一次計画が終了したとの報告が事務局よりありましたが、これについて何かご質問等はございますか。

【辻委員】 1つ指摘と、2つ意見をさせていただきたいのですが、指摘の1番目は、資料7-2の中で、土曜日おはなし会の実施時間が午後2時30分から午後3時となっていますが、正しくは午後2時から午後2時30分となるはずですが。次に、「読んでみる私のおすすめ本」というのはなかなか面白い企画と思いますが、どのような本がお勧めとなっているのかということ、また、インターンシップとして市内の中学生のみ掲載されているのですが、かつては大学生等も参加されていた様に記憶しているのですが、そのあたりの昨年度の状況はどうだったのでしょうか。

【汐崎会長】 まずは、辻委員のご指摘により訂正がありますね。また、おすすめ本のラインナップと中学生の職業体験の報告を事務局よりお願いいたします。

【利根川専任主査】 図書館において、貸出回数として年間100回以上の貸出が、例えば馬場のぼる先生の作品や、「かいけつゾロリ」シリーズ、「はらぺこあおむし」等定番となっている著名な作品がラインナップされています。

【辻委員】 それらを子どもたちがお勧めしたということですね。

【汐崎会長】 ヤングアダルト世代のものは面白そうですね。小さい子の世代は把握しやすいのですが、ヤングアダルトの世代の子は、どのような本を周りの子たちに勧めようとするのか興味

はありますね。事務局にはお手数をお掛けしますが具体的なリストの提供があるといいですね。
あと、インターンシップの件はどうでしょうか。

【利根川専任主査】 インターンシップを実施するのは、ほとんどが夏休みの期間中となりますが、この時期はここ数年クイズラリー等でカウンターが大変混雑し、来られた実習生に十分な対応ができないため、昨年度より事前のPRは全くしておらず、結果として秋から冬にかけての市内の3つの公立中学校の生徒のみ、1校あたり2名までを条件に受け入れたものです。

【汐崎会長】 他にございますでしょうか。学校に関連したことで、吉川委員は何かございますか。

【吉川委員】 特にございません。

【汐崎会長】 学校との連携で、今年度は物流の手立てがなくなるのはきびしいですね。

【鈴木担当課長】 本年度からは、3つの方法で物流をしましょうということで、学校側には伝達してあります。まず、緊急の場合は、学校側が図書館に取りに来る。2つ目は、時間に余裕のある場合は、学校側からのご希望を受け、図書館の職員が分室などへ出向く際に同時に学校へ運搬する。3つ目は、図書館から分室に運搬し、それを学校側が取りに来るというケースです。現時点では、図書館の職員に余裕がある際に、運搬している状況です。

【汐崎会長】 2つ目の方法を現在は採用している状況ですね。ここは苦しい台所事情ですね。かなり押していますので、次に、議事5の逗子市立図書館のサービス目標2018について、事務局から報告をお願いいたします。

【安田館長】 議事5の逗子市立図書館のサービス目標2018について報告いたします。

この件につきましては、本年4月12日に開催された逗子市教育委員会定例会において、報告をさせていただきました。サービス目標2018は、図書館のホームページに掲載するとともに、図書館2階の行政資料コーナーに配架し、広く市民に公表しています。なお、サービス目標2018については、個々の図書館活動の達成状況について、年度ごとに分析し自己評価を行い、図書館協議会に報告し意見を伺うなど、図書館サービスの向上に努力していきます。簡単ですがサービス目標についての説明を終わります。

【汐崎会長】 ただいま安田館長から説明がありましたが、何かご質問やご意見はありますか。

【石井委員】 このサービス目標については、途中経過を第2回・第3回の協議会の際に報告をいただくこととして、子どもの読書活動推進計画もそうですが、目標なのである程度成果を上げていかなければならない。単なる目標ではなく、実際に取り組まなければならないので、途中で

検討しなければならないこともあるでしょうから、大変でしょうがよろしくお願いいたします。

【汐崎会長】 事務局にはご苦勞をおかけしますが、図書館協議会において評価をしなければならないので、遂次報告をお願いいたします。では、議事6の平成30年度（平成29年度対象）教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について、事務局から説明をお願いいたします。

【鈴木担当課長】 平成30年度（平成29年度対象）教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施について説明いたします。

資料8-1の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、事務の管理及び執行の状況の点検及び評価並びに報告書の作成に当たり、資料8-2の実施方針に基づいて、図書館についても資料8-3の「評価シート」の作成を行うこととなりました。昨年度は、図書館協議会の代表として会長に意見を伺いましたが、今年度は、図書館協議会委員の皆さんにご意見をお伺いいたします。

点検及び評価の対象は、逗子市総合計画において、教育委員会が所管する前期実施計画の目標並びにリーディング事業で、図書館は、「図書館において、様々なテーマ設定により年間30回以上の図書の展示を行い、読書の推進を図る。」ことを2022年度までの目標として掲げており、その目標に対する取り組み概要並びに29年度の図書館活動事業の内容と自己評価をこのシートに図書館で記載しました。このことについて、外部有識者の意見として図書館協議会の意見を伺いたくお願いします。また、参考資料としてお配りしました「平成29年度（平成28年度対象）評価シート」は、昨年度作成のものでP2の「外部評価」の意見では、汐崎会長にお願いして意見を頂き「図書館職員は、多忙な中、工夫して市民の要求に応えられるようバラエティーに富んだ展示を実施していると感じる。

健康・医療情報コーナーも随分定着してきたことが統計の数字を確認して理解できた。一方で、平成27年度から設置された図書館分室については、十分な成果が見えていないのが現状であり、この点については、今後、取り組む課題と考える。」との意見を頂いています。

なお、P2の一番下の欄の「今後の課題と取り組みの方向性」については、汐崎会長から頂いた「外部評価」を受けて図書館が記載したものです。

本日は、分室の取り組みや図書館活動事業に対するご意見をいただければと思います。また、本日本配布のとおり、昨年度の点検・評価報告書について、客観性を確保するために「学識経験を有する者の意見、助言」を記載しております。教育委員会の所掌業務全般について、今後

向けた課題としてご指摘いただいた点も参考にご意見を伺えればと思います。妹尾昌俊氏の意見、助言として、①費用対効果や時間対効果の視点をもっと含めること、②世代間の違いに注目すること、③施策・事業間のつながり、連携をすすめることとあります。

最後に、本日委員から頂いた意見は、取り纏めのうえ、会長確認の後に外部有識者の意見の欄に記載をさせていただきます。以上で説明を終わります。

【汐崎会長】 はい、ありがとうございました。展示について、委員の皆さんから意見をお願いします。目標とする展示回数は、世代間の違いや繋がり等難しいことはあるかと思いますが、評価シートの中の展示の回数なども参照にさせていただいて、ご意見をいただければと思います。実績として十分達成しているということですね。

【鈴木担当課長】 そのとおりです。総合計画実施計画の目標を検討する平成25年度の段階では、図書館展示の回数がまだまだ少ない状況で、一般展示と児童展示のみでしたので、年間30回の展示を目標数としてあげましたが、その後は、健康医療や郷土、さらには各分室において様々なテーマでの展示が毎年実施され、年々展示の回数が増加し、平成29年度実績では、合計で101回の展示を行いました。また、分室では、分室職員が中心になり利用者の興味関心のあるテーマを考え、自分たちで本を集めて展示を行っています。

【汐崎会長】 昨年は、分室での展示が課題としてあげられましたが、各分室では、分室の職員が創意工夫を凝らして展示を行っているとは報告いただきましたが、委員の皆さんいかがでしょうか。

【辻委員】 外部有識者の意見ということで、特に分室について意見をという課題ですので、考えてみました。私は、小坪分室はちょこちょこ行きますが、沼間分室は、あまりこの頃は行ってなくて現状が把握できてなくて恐縮ですが、図書館分室となってから特に、初年度は沼間分室の評判があまりよろしくない声が入ってきました。利用者の人が利用しにくいとか、使い勝手が悪いとか、カウンターと閲覧席スペースの位置関係が良くないなどと知り合いからの声がありました。図書館分室の初年度は、沼間分室の利用が低調気味であったようですが、30年度の速報統計を見る限りでは、今年度の4月から6月にかけての統計は昨年度に比べて利用が伸びています。おはなし会や展示などの開催があり、利用が上向きになっているのではないかと評価されます。あと、課題と取り組みの方向性として一言申し上げますと、開館時間の減少をどうやってカバーしていくかが大きな課題と考えます。以上です。

【汐崎会長】 今、辻委員の発言から統計を拝見しますと沼間の児童関係の展示が各段に多くあ

ります。小坪は1回のみで沼間が11回とかなり格差があると感じます。これは、何か理由があるのですか。

【鈴木担当課長】 沼間分室の児童利用については、地域的にも周辺に児童にかかわる施設がないことから、児童を呼び込む意味も込めて積極的に児童展示を行っています。逆に、小坪は、隣に学童保育施設があり、近隣には市立保育園があることからあまりPRをしなくても子どもたちが利用するということがあります。そこで、小坪は、中学生・高校生を対象とするYA 展示を実施しています。

【汐崎会長】 そうすると、小坪のYA展示は、実績の中の一般の12回に含まれているのでしょうか。

【鈴木担当課長】 平成29年度実績の小坪の一般展示12回は、あくまでも大人用展示です。この実績に記載の児童展示の1回は、小学生を対象とする展示です。この実績一覧には、YA展示の開催回数は記載してありません。

【汐崎会長】 これから先の実績には、載せていくのですか。

【鈴木担当課長】 はい、今後の展示実績に載せていく考えです。

【汐崎会長】 辻委員の発言のとおり、沼間の利用が今年度は伸びてきていると。展示の効果が出てきているのかもしれない。そう思いたいですね。つまりアプローチをすれば、利用者が反応してくれる、というわりと明るい見通しがありますね。また、かなり、医療についても定着しています。統計の取り方は非常にきめ細かいので展示冊数に対して、どれだけの貸出があったか、先ほども、逗子の方は「ほっこり」が好きなんだとあるのですが、テーマ展示で人気のある傾向等が見えてきたり、単に展示をやるだけではなくどういうところで効果があったかの判断材料になる物をきちんと取ってあるのは、前からいいなと私も思っています。これは、すでに目標の30回をクリアしているわけですが、更に30回にとらわれず最終年度は、2022年ですからかなり先まで取り組んでいくということですかね。また、職員自らが積極的に考えてなさっていることが分かります。展示自体もやはり本を集めたり展示の飾りを作ったりと意欲のある職員方のセンスですとか作業量も大きい。そういう中で今回はやはり職員数が減り、一人ひとりの負担感もまた変わってくると思いますが、今のところは皆さん頑張っており取り組まれているところでしょうか。

【鈴木担当課長】 はい。展示担当が中心になり展示を実施しているのですが、年度末に翌年度の展示のテーマを検討し、そのテーマについて積極的に担当したいものを決めます。その担当が、

展示の3か月前くらいから準備を始め、展示の企画を考えて実施する段階で広報原稿の作成、ポスター作成、ホームページに告知をし、本を集めて館内整理日の第2火曜日に自らが展示の準備をします。おおよそ展示を実施するのに要する時間は、一人当たり40時間かかります。

【汐崎会長】 その時間は、確保できている体制ですか。

【鈴木担当課長】 はい、できています。業務の範囲内でこの時間を確保しています。

【汐崎会長】 安田館長、どうぞ。

【安田館長】 はい、先日、課長とともに両分室を見てきましたが、昨年に比べて両分室とも展示については、はるかに創意工夫がなされていることが確認できました。特に飾り付けなども利用者の目を引くような工夫が感じられました。松島委員についても分室の展示をご覧いただくとご自身の参考になると思います。

【汐崎会長】 一般的な図書館の地味な手法ではなくて、民間の本屋さんなどの展示やレイアウトのようにより利用者の目を引くように取り組んでいけるように。また、松島委員からも連携協力という話もありましたが、より魅力的な書架づくり、職員の経験値も高くなっていると思いますので、そこの積み上げができるの良いと思います。

【辻委員】 学校図書室を見るということで、2年ほど前に図書館協議会では、久木小学校の図書室を見学に行かせていただいたことがありますが、図書館分室の見学はできないでしょうか。

【汐崎会長】 図書館協議会の開催ということで、場所の確保はできるのでしょうか。

【鈴木担当課長】 図書館分室を見学し、図書館協議会の開催をコミュニティセンター会議室をお借りして実施することになるので、会議室が空いていれば開催は可能かと思います。ただし、傍聴の皆さんが現地に行かれるのが大変かと思います。

【辻委員】 離れていますし、なかなか難しいかもしれませんが、年度でどちらか一分室でも行かれるとよろしいのかと。市民以外の方は分室のイメージがわからないと思います。ご検討いただければと思います。

【汐崎会長】 私も行ったことがありません。

【石井委員】 会議室はないのですか。

【鈴木担当課長】 コミュニティセンター内に分室があり、会議室はそのコミュニティセンター内にあります。また、その会議室は有料で市民優先に貸し出されています。

【汐崎会長】 空いていたら図書館は、借りられますか。

【鈴木担当課長】 はい。空いていたら図書館は、無料で借りることができます。

【石井委員】 沼間も小坪もぜひ現地を見させていただきたいという思いがあります。

【汐崎会長】 すぐには言いませんが、ぜひ検討ください。展示について、魅力的な書架づくりについては、いろいろな考えがあると思いますが、他にご意見はありませんか。

【松島委員】 私は、図書館と連携したいという思いがあり、展示をやっている図書館員の方と私が話し合っ、その展示をするときには私のお店でもそれに近づけた展示の開催と合わせて図書館での展示リストを作り広めていければと思っています。

【汐崎会長】 その取り組みは、行政の中ではないですが、関連施設の連携協力ということでもう少し広い目で市全体で、それが良いのかわかりませんが、図書館の中で完結するのではなくていろいろなところにつながっていけるとひとつの提案にもなるのかなと思います。行政的には難しいところもあるでしょうが、ぜひご検討いただければと思います。

【鈴木担当課長】 前段で、分室に対しての意見をいただいているので、それをまとめた形で一度会長へご相談させていただきたいと思います。ご意見をいただきありがとうございました。

【汐崎会長】 分室だけではなく、図書館そのものもこのままレベルを落とすことなく、さらに上へという形で進めていただきたいと思います。

では、最後の議事7のその他で、先日開催されたまちづくりトークについて事務局から報告願います。

【安田館長】 それでは、平成30年度第1回まちづくりトークについてご報告いたします。市民の皆さんと市長が直接意見を交換する場として、平成30年度第1回まちづくりトークが、さる6月24日(日)午前10時から12時30分まで、市役所5階会議室にて開催されました。参加者は15名で、「私たちにとって魅力ある図書館とは」をテーマとして、図書館の活動状況を報告し、財政対策に基づく図書館サービスについての説明を行い、市民が望む魅力ある図書館について市長との意見交換を行いました。参加された方からは、まちづくりトーク全体をとおして、おおむね満足できる内容であったとのアンケート結果を得たところです。グループ討議の中ででてきた、参加者からの意見は次のとおりです。逗子市立図書館の良い点は、子どもの読書への対応が充実している、清潔感があり、明るく、本が探しやすい、また、企画展示コーナーがすばらしい等のご意見をいただきました。一方で、気なる点としては、閉館時刻を遅くして欲しい、火曜日も開けてほしい、駅ブックポストを元に戻して欲しい、喫茶室があったらいいなどといったご意見をいただきました。次に、魅力ある図書館とはとの問いに、長時間いつでも使えること、若い人にとって魅力ある図書館を目指す必要がある、また職員が専門職としてはつらつと仕事をし、ど

んな人でも楽しんで利用できる図書館であって欲しい等のご意見をいただきました。平成30年度からは、財政対策プログラムに基づく、図書館サービスの見直しを行いました。市民の声を十分に反映し、今後の図書館活動の参考としたいと考えております。簡単ですが、まちづくりトークの概要を説明いたしました。

【汐崎会長】 ありがとうございます。図書館長からの説明が終わりました。何かご質問、意見などありませんか。

【辻委員】 私もこのイベントに参加しましたが、感想と印象をお話したいと思います。まず、市の広報では100名が定員とのことでしたが、実際の参加者は15名ということで、少々がっかりいたしました。6名ずつ5つのテーブルが用意されていて、最低でも30名は参加者があると見込んでのことかと思いますが、最初は3名ずつに振り分けられて、グループ討議もできない状況であると、縮小して5名ずつ3つのグループに分かれての討議となりましたが、年齢層が幅広く、中には中学生1名の参加者もいました。20代1名、30代2名、40代2名、60代1名、70代1名、80代7名くらいの年齢構成であったかと思いますが。また男女比は、男性8名、女性7名くらいで、参加者数は少なかったのですが、年齢層はバラエティーに富み、男女比もバランスが取れており、よかったと思います。図書館長が先ほど報告されたことと重複するかと思いますが、私の参加したグループの中に、30代の女性がいて、現在起業を考えていらっしゃるということで、昨年逗子へ引っ越してきて図書館を利用しているのだが、図書館の図書を選書がユニークで面白い。また、若い人が1回でも図書館を利用すれば、こんなに面白い本もあることを知り、本の楽しさがわかり、また来館してもらえないのではないか、しかしそれが利用に結びついていないのではないかとのご意見がありました。私のグループのメンバーが言っていたのは、この4月より開館時間が短縮されたこと、駅ブックポストが撤去されたことについての意見が多数ありました。

また、市長の発言で気になったことは、2020年度から公務員制度の在り方が変わる中での対応を迫られているとのことでした。また、私の参加したグループの中に、図書館の指定管理に関し質問した人がいました。市長は、図書館の指定管理については考えていないのですね、との問いに対し、市長は、現在ロードマップには掲載されている事項で、今後も検討課題ではある旨の回答でした。ただ、残念だったのは、図書館協議会委員の参加は私1人で、市民の生の声を肌で感じられる貴重な機会であったのではないかと思います。

【汐崎会長】 当日の様子がよく伝わる辻委員からの報告でしたが、このことについて何かご意見ございますか。

【石井委員】 開館時間と駅ブックポストについて、どのようなご意見があったのでしょうか。

【辻委員】 毎日、一律午後6時の閉館というのはおかしい、また、駅ブックポストがなくなっ
てしまい、図書館から本を借りること自体を自己規制してしまうのではないか、返しにいけない
となると、本を借りることやめてしまう。結果、図書館から足が遠のいてしまうとのことでした。

【石井委員】 駅ブックポストを元に戻せ、開館時間も元に戻した方がよいとの意見だったので
しょうか。

【辻委員】 おそらく参加された15名全員の意見であったと思います。

【石井委員】 それについて他のご意見はなかったのでしょうか。昨年度までの体制の方がよか
ったということでしょうか、市長も同席していたわけだから、何か発言はなかったのですか。

【辻委員】 市長には耳の痛いことではなかったかと思えます。

【安田館長】 昨年度来、逗子市の財政状況は大変厳しく、本年度の予算編成作業においては、
全庁的に、近隣の自治体よりサービス水準の高いものは見直しの対象となり、図書館も聖域とは
いかず、予算の縮小に伴うサービスの縮小を余儀なくされたものです。今後の逗子市の財政事情
が好転すれば、場合によっては、図書館サービスの回復もありうることはと思いますが、財政事
情の好転は期待できるものではありません。予算は無限大にあるわけではありません。例えば、
昨年度までは平日は午後8時まで開館していたため、この時間に利用されていた方には、土曜
日・日曜日を午後5時閉館とし、その分で週1回午後8時まで開館する日を設けるといった体制
は作れないのか。といった考え方もあろうかと思えます。ただし、土曜日・日曜日の午後5時以
降の利用も現実には多いため、そのせめぎ合いになることを認識する必要があります。これら
について、図書館協議会の委員の皆さんのご意見をお伺いできればと思います。

【汐崎会長】 図書館長から提起がありましたが、開館時間の縮小については、すでに昨年度の
段階で曜日によって変えることはできないのかとの考えを協議会で示しました。私自身も曜日によ
って変えても良いのではないのかとの考えをお示しました。しかし、曜日によって変えるのは、
職員のシフトを組むことが難しいことから、現在の体制にしたわけですね。今の図書館長からの
説明では、元の体制に戻すのではなく、現体制の中でどうやりくりしたらよいのかの提言をいた
だきたいとのことですが、実際には午後5時から午後6時の利用が多いとのことですが、それは、
もしかしたら以前の午後8時まで開館していた全体の利用の流れの中での利用の傾向だったのか
もしれません。ところで、本年4月から6月までの利用傾向は変わっていませんか。

【鈴木担当課長】 資料1～4までご覧ください。資料1が、平成28年度の曜日別平均貸出者数

で、年間通しての曜日別の1日当たりの平均値をお示ししています。次の資料2は、平成30年度の4月から6月の3か月間の利用実績を曜日別に示しています。本年度は火曜日が全て休館日となっています。割合で見ると、曜日別では、土曜日・日曜日が従来よりも増加しているのが顕著な傾向です。次の資料3は、平成28年度時間帯別貸出者数で、開館している午前9時から午後8時までの、貸出者数のトータルの構成割合です。最後の資料4は平成30年度の時間帯別3か月の貸出者数の割合です。比較対照すると、午前9時から10時、午前10時から11時、午前11時から12時までの午前中の利用構成割合が今年度は増加しています。その分、昼の時間帯は若干少なくなっています。これは、前年度と同じ傾向です。午後5時から午後6時の時間帯は平成30年度では12.6パーセント、平成28年度は午後6時から午後7時まで約4パーセント、午後7時から午後8時まで約5パーセントの貸出者数がありました。以上ですが、委員の皆さんからの意見をお伺いするための参考資料です。

【汐崎会長】 シンプルに見ますと、午後6時から午後8時までの利用者が削られた形となったわけですが、その利用者数は、ばつさりと削られたのか、前倒しとなったものか、どちらなのでしょう。

【鈴木担当課長】 これまでの感触としては、前倒しの利用で、なおかつ朝一番で本を返却、貸出する方が増えたように見て取れます。図書館の開館時間に合わせて、利用者がこれまで仕事が終わってから来館されていた方が、通勤途上、朝に図書館に立寄ってからお仕事に行かれていますのではないかと感じています。

【汐崎会長】 これも、一年通してみても判断できないですかね。あと、気になったのは、資料3と4の表の右に合計があるのですが、これはおかしいのではないのでしょうか。

【鈴木担当課長】 これはない方が良いと思います。

【汐崎会長】 そうすると、朝9時の開館時刻ははずせないですね。開館時刻を遅らせることは難しいですね。

【鈴木担当課長】 本日も、午前9時の開館前に行列ができており、平日は20人から30人ほど、土曜日・日曜日は50人以上の行列となります。朝の開館時刻を遅らせることは、利用者からの相応な不満が出てくることが予想されます。

【安田館長】 午後6時から午後8時までの利用ですが、ひとつはサラリーマンが帰宅の際に、図書館に立寄り本を借りていきます。また、学習するための居場所としての図書館を求めています。居場所としての利用は、お隣の市民交流センターの利用も考えられますが、資料の提供が必

要な場合は、図書館が開いていなければなりません。このことについて、何か工夫の余地がないかを考えているところです。

【汐崎会長】 市民交流センターは何時まで開いているのでしょうか。

【鈴木担当課長】 午後9時まで開いています。ただし、この4月より日曜日のみ午後6時閉館となっております。これも、財政対策プログラムにのっとりた形となっております。それ以外は会議室は有料で貸し出しを行っております。また地下プールもありますので、午後9時の閉館となっております。

【汐崎会長】 会社帰りでは、すでに図書館は閉まっています借りにくいが、図書館入口脇のブックポストは使えますよね。ブックポストでの返却は増えたのでしょうか。借りた本を、返すだけは返すということですよ。

【安田館長】 ブックポストの利用は、明らかに増えています。

【汐崎会長】 せっかく来たのだから返すだけは返そうということですね。

【安田館長】 逗子市民の性格かもしれませんが、返却期限を守るという意志の利用者が多く、結果としてブックポストに返却する利用者が多いと思われます。本館だけでなく分室のブックポストへの返却が増えています。4月以降利用者はそれぞれ工夫しているようです。しかし、現在の開館時間を将来延長する要求に対して、週一日程度午後8時まで延長することが必要なのかどうか。そうすると土曜日・日曜日の開館時間を縮小する必要があります。ただし、現実には土曜日・日曜日の利用も多いわけで悩ましいところです。その他入館者数もチェックしているのですが、何か良い方法はないか検討しているところです。

【汐崎会長】 貸出者数で見ると金曜日はかなり少ないようですが。

【安田館長】 これはまだ直近の3か月の統計であり、天候に影響される場合もあります。いずれにしても、長期的に見て判断していく必要がありますが、本日図書館協議会に示すために直近の3か月の数値を上げています。そこで委員の皆様のご意見を伺い、今後の参考にさせてもらいたいと思います。

【汐崎会長】 つまりどこか時間を削って持つてこなくてはならないわけですよ。現行の午前9時から午後6時までの開館は変わらず、それに加えて一日だけ時間延長することは無理なので。横須賀市は、週2日遅くまで開館しています。横須賀市民はこれまでの経験でその日は遅くまで開館していることを知っています。一方逗子市は、遅くまで開館するためにどこかの曜日または時間を削るなどして捻出するしかないわけですね。

【辻委員】 かつて逗子の図書館では、金曜日を午後8時まで開館していましたね。この表を見ると3か月実績ですが金曜日の利用が少ないですね。金曜日を延長することは意味が無いのでしょうかね。

【安田館長】 数値だけでなく、仕事帰りに夜の時間帯に図書館に立ち寄るサラリーマンが来られなくなっている事情を考慮する必要があります。

【汐崎会長】 この表にある棒グラフで見ると、確かに利用に大きな差があるように見えますが、実際の数値はさほどでもない。この表の作りが宜しくないですね。

【石井委員】 逗子の図書館は現在の図書館になった時から閉館時刻が午後8時になったのですよね。それでこれまで継続してサービスを実施してきたわけです。現在午後6時に閉館時間を設定したわけですが必ずしも午後8時にこだわる必要は無いと思う。例えば午後7時まででも良いわけですよね。午後8時にこだわる必要はないですよね。県内の図書館の流れからすると午後7時ぐらいが平均ではないでしょうか。まあ指定管理制度を採用しているところでは、午後8時までぐらいはやると思いますが直営のところでは、午後7時ぐらいではないかと思います。だから必ずしも午後8時にこだわる必要はありません。それから午後6時から午後7時にした方が良いかということですよね。図書館利用の考え方としては、三つあります。ひとつは貸出ですよね。もうひとつは滞在というのはふたつのパターンがあります。本当に滞在している人と調べ物とかで図書館を利用するために必要だという人がいます。おそらくこの三つではないか。貸出については、時間を分散させることができるのではないか。そうであれば開館時間を延長する必要は無い。勉強のための利用は、市民交流センターの利用も考えられます。問題は、図書館資料を使いたいために図書館に来館する利用者が午後8時までにどのぐらいいるのか。これが最も大事なことです。これが少ないようであれば、例えば週2回程度午後7時まで開館し、その代わり土曜日・日曜日は午後5時閉館にしても良いのではないかと考えます。これらは考え方ですけどね。こうした問題が起こらないと、図書館の開館時間のあり方につき検討する機会がないわけです。元に戻せないとすると、どうやりくりするのか、それを考える良い機会としてとらえれば良いのではないか。

【安田館長】 一方で仕事帰りのサラリーマンが利用するためには、午後7時閉館だと間に合わないという要望もあるのではないかと思います。

【汐崎会長】 曜日によって時間帯の利用は違ってくるのでしょうか。午後5時から午後6時の利用は、土曜日・日曜日と平日とでは利用度は違ってきていますか。

【安田館長】 若干あります。土曜日・日曜日は、この時間帯に児童室に親子で来られる方が多く見られます。午後5時に閉館であれば、それはそれでみなさん帰られるでしょうが。

【鈴木担当課長】 これも冬時間になると、暗くなることもあって土曜日・日曜日も利用は少なくなります。現在は日も長いので利用者も多いわけです。ゆったりと過ごされる親子が多く見られます。

【汐崎会長】 季節によって開館時間を変えらるとなると大変ですよ。ただ、これらの検討は建設的ではないですよ。どこかを削ってどこかにもっていくわけですから。

【安田館長】 予算を確保して従来どおりのサービスができれば良いのですが。今後の図書館サービスは、限られた予算の中で市全体の市民サービスのなかで優先順位によって決定されていくことになると思われます。

【汐崎会長】 市民の方からは、駅のブックポストは物理的に難しいとしても、開館時間に関するご意見とご要望がでていなかで、図書館として次善の策を考えなくてはいけないわけですよ。

【安田館長】 市議会でも図書館の開館時間についての陳情が可決され、一方で財政対策上厳しいなかですが、サービスの方法を図書館で工夫しなさいということです。そこで図書館として独自の対策案を考えていく必要があります。そこで、図書館協議会の委員の皆さんの意見が大変参考となります。

【辻委員】 町づくりトークの際にも、市長は削減した図書館サービスのどれを見直しの対象とするかについて触れられました。一番に図書館の開館時間について、次に高齢者センターのお風呂の件、小学生の通学路の安全対策のための交通整理員の配置の件、などについての課題を話されました。図書館の開館時間の検討につきましては難しいですかね。

【汐崎会長】 図書館協議会としてはその様な工面をするのではなく、なるべく前の状態に戻すことだと思います。利用者の声ももちろんあるわけですから。

【辻委員】 帳尻あわせをしているように見られますよね。

【汐崎会長】 限られた時間のなかでどっちに寄せていくのか。利用が少なくてもそれぞれの利用者は自分の都合の良い曜日に利用するわけですから。市長が考える優先順位もあるのでしょうか。

【松島委員】 図書館のボランティアの件ですが、私が勤めていた図書館では、市民の方が書架整頓とか本の修理とかを重きにおいてやっていただいたのですが。そういう作業的な部分を市民

の方に協力してもらい、浮いた時間をカウンター業務にあてていくことはできないのでしょうか。

【安田館長】 ボランティアの受入については、これまでも検討してきました。設備的にはボランティアの皆さんが作業をされるスペースの確保、また研修につきましても、きちんとした体制を整備したうえで実施していかなければならないと考えています。私の考えとしては、図書館職員が返却作業や修理作業を行うことは重要な仕事と考えていて、それをボランティアにお任せするような体制作りは、なかなか難しい問題と考えていますが、参考意見として受け止めていきたいと思います。

【石井委員】 開館時間の変更についていつから変えたいのですか。現在の体制は、この4月にスタートしたばかりですよ。すぐに変えるわけではないですよ。

【安田館長】 変えるにしてもコンピュータの処理も必要となります。その他様々な課題があり、本年度中は検討期間と考えています。一方で市民の皆さんや市議会議員からの意見もでています。

【石井委員】 要するに今年度中に変えるのか、あるいは検討したものを来年度以降に変えていくのかである。基本的に言うと現体制はスタートしたばかりで、いかにいろいろな案を出したとしても今年度中には変えられないでしょう。現行は試行なわけですから、来年度は考え直しても良いということになります。年度内にいまさら変えることはできない。検討課題として検討していったって、この辺が妥当かなと思うところを考えておくということになります。来年度以降の財政状況がもっと厳しくなったとき、さらに予算を削減しろということにもなるかもしれませんよね。例えば指定管理者制度を導入するという方法もありますが、直営が良いに決まっていますよね。また開館時間も昨年度までの状況がより良いに決まっています。それ以上のマイナスな面を図書館協議会として判断することは難しいです。だから現状を踏まえた検討課題として来年度以降に案をだして、また市民の要望も踏まえて検討することです。今年度はこのままの体制でいくことです。

【辻委員】 またそれでガタンと利用が減少したということになれば、さらに検討していくことが必要になってくると思います。

【石井委員】 いろいろな案を踏まえて、そのケースごとに当てはめ何か良い案があるかということですかね。

【汐崎会長】 皆さんから貴重なご意見をいただきました。これを良しとしているわけではなく、それに関しては石井委員も発言されましたが、来年度以降さらに財政状況が厳しくなるかもしれない。図書館協議会としては、これで良いですよと決めているわけではなく、まだ試行であることを

いつも考えて、常に利用者に使いやすく、できれば前に戻すことを考えて、このことを忘れてはいけないと思います。

予定の時間をすでに30分程経過しているのですが、何かほかにご質問はありませんか。事務局の方は何かありますか。

【鈴木課長】 特にありません。

【汐崎会長】 他にご意見・ご質問等がないようですので、これで本日の会議を終了します。どうもありがとうございました。